TO THE NEXT STAGE.

TOWARDS 2020.

次のステージへ。

これまでの5年間、そして2020年に向けて。

jfra 日本ファンドレイジング協会
Japan Fundraising Association

2020 VISION

「善意の資金循環」10兆円時代の実現へ。

その時代の社会とは、
子どもたちが他人に役立つことを最大の誇りに思う社会。
誰もが自分が起こす社会変化の可能性を信じて、
やりたいことに思い切りチャレンジできる社会。
誰も、「ひとり」にならず、助け合える仲間がいて、
分かち合えるコミュニティを持っている社会。
NPOと社会を繋ぐファンドレイザーのおかげで、
活動するNPO等の夢が実現し、社会が明るくなる社会です。
わたしたちは、皆さまと一緒に、
この夢を実現していきたいと思います。

2009

2014

IN 2020

2020 VISIONとは

2009年の通常総会にて、会員の皆さまにどんな社会を目指すとよいか、意見を出し合っていただき決めた「2020 Vision」。「2020 Vision」では、2020年、日本社会の「善意の資金」が1億人の参加で、年間10兆円となる時代を実現します、と表明しています。NPO、企業、行政、学校などと連携をしながら、この「2020 Vision」を実現させていきます。

Japan Fundraising Association

PATH TO 2020

「善意の資金循環」に必要なイノベーションをすべて起こす。そのための活動をしてきた5年間と、これから。

これまでの5年間は、「ファンドレイジングする側」のイノベーションに取り組んできました。これからは全国に生まれつつある「主役」のみなさんと共に次々と資金循環を生み出す、「社会を動かす」ステージです。

2009

2009.2
国連大学にて日本ファンドレイジング協会設立シンポジウムを開催

日本全国47都道府県から580名の発起人の賛同を受け、寄付10兆円時代の実現を目指して設立されました。設立シンポジウムには、米国ファンドレイジング協会会長のボーレット・マエハラ氏（当時）が300名の出席者の前で基調講演されました。

2009.10
事務局開設

2009.10
第1回通常総会を開催。初年度の会員は224名。

2009.10
ファンドレイジングジャーナル「Fundraising」を創刊

2010

2010.2
第1回ファンドレイジング・日本開催

ヨーロッパファンドレイジング協会のロバート・カワルコ副会長（当時）が来日し、日本で初めてのファンドレイジング大会を開催。2日間に渡り、400名の参加者が全24セッションを通じ、ファンドレイジングを学びました。

2010.2
日本ファンドレイジング大賞発表

寄付の成功事例を明らかにすることで、日本全国に新しい寄付文化を生み出していく一助とするために、人々に感動と笑顔を与えたファンドレイジングを行った団体を顕彰する「日本ファンドレイジング大賞」。記念すべき1回目の大賞は「世界の子どもにワクチンを日本委員会」が受賞しました。

2010.2
「寄付者の権利宣言2010」

日本において寄付者が自由な意思に基づき、寄付を行ううえで最低限有すると考えられる権利についてまとめました。そうした寄付者の権利を寄付の受け手側が尊重することにより、より寄付が進むような相互の信頼関係の構築が可能であると考えています。

2010.6
総会開催

この総会にて、2009年通常総会にて会員の皆様に意見を出し合っていただいた2020ビジョンをまとめ、発表しました。この2020ビジョンを実現するために、日々精進しています。

2010.7
International Summit on Fundraisingへ日本代表として鵜尾（当時常務理事）が初参加

2010.12
第1回「寄付の教室」開催

埼玉県鶴ヶ島市立富士見中学校にて、寄付を通して生徒が社会参加に目を向けるようになることを目的とした子ども向けフィランソロピー教育「寄付の教室」を日本で初めて実施しました。

2011

2011.1
寄付白書2010発行

毎年、寄付などの善意の資金の流れがどれくらい存在するのか、統計的に不明であることが重要な課題のひとつであると考え、日本社会の「寄付市場」全体を明らかにするために、寄付白書を日本で初めて発行しました。

2011.1
英語版寄付白書Giving Japan2010発行

2011年6月に日本で初めて英語版寄付白書「Giving Japan2010」を世界各国に向けて発信した。特に、東日本大震災以降、日本での寄付市場に注目が集まる中、Giving Japanの発信する情報の重要性がますます高まっています。

2011.2
「ファンドレイジング行動基準・ガイドライン」策定

2010年2月に発表された「寄付者の権利宣言」につづき、2011年2月に寄付を集める側がファンドレイジングする際に守るべき行動基準について、「ファンドレイジング行動基準」としてとりまとめました。日本ならではの行動基準をつくることを企図して、その起草を民間非営利セクター関係者や有識者等とともに行い、その草案を公開して広く意見募集を行い、寄付集めの支えとなるような、その結果を勘案しました。今ではこの「ファンドレイジング行動基準」に同意した約400名のファンドレイジングが全国各地で活躍しています。

2011.3
街頭募金10の留意点を発表

東日本大震災発生後、多くの団体やグループが街頭募金を行う中、社会の信頼を得ながら、街頭募金が実施されるようにと「街頭募金10の留意点」を発表しました。

2012

2012.2
第1回「准認定ファンドレイジング必修研修」を開催

日本の非営利民間セクターに対する寄付市場拡大に資するため、ファンドレイザーのスキル向上、高度な倫理観を有するファンドレイザーの育成、後進の指導や健全な寄付市場の形成に向けて指導的立場に立つ人材の育成を目的として認定ファンドレイザー資格認定制度がスタートしました。当資格を取得するために受講の必要がある「准認定ファンドレイザー必修研修」の第1回目には、310人が参加し、ファンドレイジングを体系的に学びました。

2013

2013.2
第1期認定ファンドレイザー誕生

社会を変えるプロフェッショナルである認定ファンドレイザーが16名誕生しました。これから全国各地で、認定・准認定ファンドレイザーを中心とした新しい動きが始まります。

cfr
Certified Fundraiser
Japan Fundraising Association

TO 2020
これからのチャレンジは「社会を動かす」ことです。

現在、課題先進国と言われる日本の未来のためには、行政依存型の社会課題解決から民から民への資金が流れることによる新しく独創的な課題解決力の創出が必要不可欠です。その新しい社会モデルを実現するために、私たちはチャレンジし続けます。

「社会を動かす」ためには、プロフェッショナルな担い手が必要です。全国各地のチャプター※を軸に、主役になるファンドレイザーを次々と生み出します。

「資金が循環するために具体的な仕組みを作る」ために、企業、政府、財団などと連携して休眠預金や遺贈寄付、富裕層の寄付促進や社会投資市場の形成などの新たな仕組みを全国規模で展開していきます。

「社会のために役立ちたい人たちが一歩前に進む」ために、社会貢献について体系的に学び、実践するきっかけを全国に生み出していきます。

「未来を担う子どもたち」のために、全国すべての小中高で寄付教育が当たり前になる社会を実現します。

※チャプター：認定ファンドレイザーを中心とした当協会会員によって、地域で組織され、協会が地域代表として公認したグループ

Japan Fundraising Association

10 INITIATIVE

WE ARCHIVED IN LAST 5 YEARS IN JAPAN

寄付市場を醸成させるために行ってきた 10の日本初のとりくみ。

2009年に設立し、この5年間で日本で初めてとなる10のとりくみを実現し、寄付をする側、寄付を受ける側の「基本インフラ整備」を充足してきました。

01 in 2009

ファンドレイジングジャーナル「Fundraising」発刊

日本におけるNPOのファンドレイジングスキルの向上や社会の寄付への関心醸成を目的として、ファンドレイジングの成功事例や世界の動向などを紹介する日本唯一の情報誌を発行。5年間で全19号を発行してきました。

02 in 2011

寄付白書

日本における「寄付市場」を明らかにするために、日本ではじめて寄付白書を発行。ダイヤモンドオンラインで2010年度社会貢献ニュース第1位にもなりました。今ではファンドレイザーがこのデータを活用して、ファンドレイジングの実務に活かしています。メディアでもこのデータを基ととした、寄付関連の情報が発信されています。

03 in 2010

ファンドレイジング大会「ファンドレイジング・日本」開催

多数のセッションを通じて、「学ぶ」より「気づく」、「参考になる」より「やりたくなる」そんな日本で初めてのファンドレイジングに特化したカンファレンスを開催しました。全国からの参加者は初回400名から1,000余名にまで増加しています。

04 in 2010

ファンドレイジング大賞発表

ファンドレイジング大賞は、寄付の成功事例を明らかにすることで、日本全国にある寄付文化を生み出していきたいという思いで、発表しています。受賞団体は国際ファンドレイジング大会の世界ファンドレイジング大賞へ候補団体として推薦しています。2012年10月に、第2回ファンドレイジング大賞を受賞された「あしなが育英会」玉井義臣会長が、世界ファンドレイジング大賞（個人部門）を受賞されました。

05 in 2010

「寄付者の権利宣言2010」発表

日本において寄付者が自由な意思に基づき、寄付を行ううえで最低限有すると考えられる権利についてまとめました。

06 in 2010

International Summit on Fundraising への日本代表として参加

各国のファンドレイジング協会の代表者会議であるInternational Summitに日本代表として初めて参加しました。

07 in 2010

「寄付の教室」開始

子ども向けフィランソロピー教育として「寄付の教室」を開始。全国の小中高校で寄付教育モデル事業をスタートさせました。

08 in 2011

「ファンドレイジング行動基準」策定

寄付を集める側がファンドレイジングする際に守るべき行動基準についてまとめました。

09 in 2011

日本版Planned Giving（寄付信託）の税制改正

米国で12兆円の残高のある寄付信託。金融機関が窓口となり、シニアの寄付が進む仕組みとして、日本版ブランドギビング信託を実現させました。

10 in 2012

「認定ファンドレイザー」® 資格認定制度開始

ファンドレイジングに携わる人たちのスキルや倫理観を確認し、認定していく資格制度をスタートさせました。資格を有したプロフェッショナルファンドレイザーが増えることで、NPOのファンドレイジング力を向上させ、課題解決を促進させていきます。

ファンド レイジング・ 日本

Fundraising Japan

ファンドレイジング・
日本2014オープニング
セッションの様子

日本一、具体的な気づきと元気が溢れる場。

当初「誰も成功事例なんて共有しない」と言われ、思うように参加者数も増えず、時期尚早だったのかと話し合ったことを思い出します。ところがそれからまもなく、毎日、驚くほどの申込みがあり、満員御礼で当日を迎えることができました。日本社会はこうした場を必要としていると実感した瞬間でした。今では毎回、参加者の方々から、「学ぶ」より「気づく」、「参考になる」より「やりたくなる」、「1年間分の元気をもらえました！」という声をいただける、気づきや出会いが溢れる場になっています。
これからは、全国に発足するチャプターを中心として主役が増え、地域ならではの事例が紹介され、また、世界中のファンドレイザーとのネットワークも広げられる、そんな大会にしたいと思います。

世界中から集まるゲストスピーカー。

携帯寄付で世界的なファンドレイジングのイノベーションを起こした
Mobile Giving Foundation 創業者兼CEO
ジム・マニス氏

世界No.1と評される NPOコンサルタント
The Management Centre ディレクター
バーナード・ロス氏

米国NO.1と定評の ファンドレイザー育成学校校長
インディアナ大学 ファンドレイジングスクール校長
ティモシー・セイラー氏

世界4大ファンドレイジング大会だからこそ実現できた、世界中で活躍するファンドレイジングのトップスピーカーの来日。初来日のスピーカーもおり、日本ではここでしか聞けない内容ばかりです。また、日本でのファンドレイジングの広がりは、世界中から注目されています。

400名 → 1,000名

2010年の第1回目では400名だった参加者が、この5年間で1,000名を超える規模になりました。これは、この大会に参加して頂いたひとりひとりが、この場を最高のものにしようとしてくださったおかげです。また、日本中からの参加者に加えて、アジアからの参加者も増えています。これからは、アジアのファンドレイザーのネットワークも広げていきたいと思います。

24セッション → 60セッション

2010年は24セッションをご用意して開催しました。今では、さまざまな分野の豪華な講師によるセッションが、「日本と世界の最新動向」、「共感コミュニケーション」、「ソーシャルビジネス・ファイナンス」、「オンラインファンドレイジング」、「戦略的ファンドレイジング」の5つのカテゴリに分類され、合計60にもおよびます。世界中のファンドレイジングの知識、ノウハウから一挙に学ぶことができます。

参加者の声

自らが成長できる場。

日々変わる動向を含めファンドレイジングについて学べるのはもちろん、講師、参加者やボランティアからも刺激をもらい、自分が成長できる場だと思います。日本でのファンドレイジング力の向上を目指し、身の引き締まる思いで参加しています。

（特活）国連WFP協会
石川 莉紗子さん

志を持った仲間との出会い。

様々な講師の実践に基づくセッションはもちろんのこと、志をもった日本中からの仲間と出会い、刺激を受け合うことができることがこの大会で最も素晴らしい点だと思います。准認定ファンドレイザーを取得し、司会という役割を担うことで、さらなるネットワークの広がりにもなりました。

日本アイ・ビー・エム（株）
飯田 佑理子さん

ぜひご参加ください。

ファンドレイジング・日本2015（FRJ2015）は2/14、15に開催！

セッションの紹介だけでなく、公募セッションやボランティア募集などの詳細も掲載します。

ファンドレイジング・日本 検索

FRJ2015の参加受付開始は2014年10月1日です。
http://jfra.jp/frj/

世界4大ファンドレイジ ング大会にまで成長。

社会を変えるプロフェッショナルを生み出す。

共感をマネジメントしながら成長する。

社会課題を解決するために、続々と生まれる魅力あるNPO・社会起業家と、社会貢献に関心のある7割の日本人（2013内閣府調査）をつなぐパイプラインとして「ファンドレイザー」に対する期待が高まっています。
本資格制度の目的は、NPO・公益法人のファンドレイジング力の底上げに寄与することはもちろんのこと、ファンドレイジングのプロセスを通じて、支援者一人ひとりが社会課題解決に参加し、達成感を感じる機会を生み出すことにあり、この成功体験の積み上げが、中期的な日本社会全体の課題解決力の向上になります。
これから、ファンドレイザーが誇りある職業として高く評価され、職業欄に、あるいは求人票に「ファンドレイザー」と記載されることが当たり前になる社会を目指します。

世界最大のCertified Fundraising Executive（CFRE）と世界初の資格相互認証が合意されました。

米国に本部のある、世界最大の認定ファンドレイザー資格機関CFRE（http://www.cfre.org/）と資格の相互認証合意が2014年1月29日に締結されました。

資格保持者が団体にいることで、助成申請の際に評価の向上になります。

日本最大の助成財団である「日本財団」、愛知県初の市民コミュニティ財団である「あいちコミュニティ財団」などの助成申請書には、団体内の認定・准認定ファンドレイザーの有無を記載する項目が設けられています。

個人としての待遇の改善につながります。

北米地域では、同じファンドレイザーでも資格取得の有無で、年収で平均2万ドル（160万円）程度の待遇差があります。日本でも「ファンドレイザー」という職が認知され、適切な評価を得られるよう取り組みを行っており、求人募集でファンドレイザーの資格保持者に、手当がつくようになったケースもあります。

35名

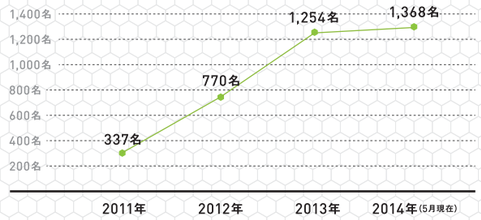
35名の、包括的なファンドレイジング力を備えたプロフェッショナルファンドレイザーである「認定ファンドレイザー」が誕生し、日本の社会を変革していきます。

346名

ファンドレイジングの基本的な要素を抑えた「准認定ファンドレイザー」がいることで、組織の成長につながります。

1,254名（2013年度まで）

2011年度337名、2012年度433名、2013年度484名とファンドレイジングを体系的に学ぶ准認定ファンドレイザー必修研修の受講者が毎年増えています。



社会を変える仲間に！

社会を変えるプロフェッショナル、認定ファンドレイザーになりたい方はこちら。

各種研修や、ファンドレイザー制度について掲載しています。

認定ファンドレイザー　検索　http://jfra.jp/cfr/

認定ファンドレイザー®資格認定制度

Certified Fundraiser

ファンドレイジングの本質への理解を広めたい。

「ファンドレイジング」の認知が広まり、「ファンドレイザー」と名乗る人も増えた今、「ファンドレイザー」として成果を出すこと、そして、「ファンドレイジング」を単なる「資金集め」ではなく「社会問題解決の一手段」として昇華させることを一緒に頑張りましょう。

一緒に進化するファンドレイザー。

社会が変化する限り、ファンドレイジングも変化し、ファンドレイザーに求められる役割も変化していきます。この道に終わりはありません。ファンドレイジングの基礎は同じように学んでも、各々の地域で培われた経験や知識があり、「このことならあの人に聞こう」と得意分野をシェアし合える・・・そんな風に、一緒に進化していきましょう！

託されたお金を効果的に使う意識をもっと高めたい。

ファンドレイジング力は、自分が寄付金を集める上で必要なことはもちろんですが、集めた寄付金を託すパートナー団体にも非常に大切です。助成した団体が効果的に事業を行い、いずれ自立できるかという視点はこれからも高まっていくでしょう。一緒に、仲間を増やしていきたいですね。

（公財）日本センチュリー交響楽団　木下 菜生子さん

（公社）被害者サポートセンターあいち ファンドレイザー　河合 裕子さん

（特活）かものはしプロジェクト 日本事業統括ディレクター　山元 圭太さん

（特活）NPOサポート・しみず 理事長　磯谷 千代美さん

高島市（滋賀県）職員／元オーケストラ団体ファンドレイザー　戸田 由美さん

（特活）アカツキ 代表理事　永田 賢介さん

（公財）日本財団 経営支援グループ ファンドレイジングチーム チームリーダー　長谷川 隆治さん

（独）国際交流基金 経理部　庄司 理恵さん

2013年12月3日、福岡県北九州市立鞍ヶ谷小学校4年生との「寄付の教室」の様子

寄付の教室®

Learning to
Give Program

寄付教育を日本中で広めていきたい。

寄付とボランティアは個人ができるフィランソロピー（社会貢献）の両輪です。諸外国では一般的な寄付教育が、日本の教育現場においてはほとんど行われていません。寄付教育で大切なことは、寄付について理解することのみならず、「自らの多様な価値観に基づいて、寄付先を選ぶ」ことと「楽しみながら寄付の成功体験をすること」にあります。私たちは、大きな負担なく、どの学校でも実施可能な「寄付の教室」という体験学習プログラムを開発し、70教室以上で提供してきました。子どもたちが社会課題を知り、自らの価値観で社会的な活動を応援することの楽しさ、そして様々な価値観や考え方の違いを認識し、互いに助け合い自分たちがベストだと考える応援方法を選択していくことの難しさなどを、学ぶ機会を提供しています。

自らの価値観で選ぶことの大切さ・楽しさを学ぶ。座学から体験型ワークショップまで。

基本プログラム「90分モデル」
寄付の模擬体験をする教室内授業（45分×2コマ）

1. **アイスブレイク**
   「NPOってなんでしょう？」でNPOと寄付について学ぶ
2. **NPOの活動紹介**
   ビデオとプレゼンで複数の団体を知る
3. **個人ワーク**
   「個人でどの団体を応援したいですか？」模擬紙幣で寄付先を選ぶ
4. **グループワーク**
   「グループで応援したい団体は？それはなぜ？」
   各グループでディスカッションし寄付先を選ぶことにより学びを深める
5. **グループプレゼン**
   各グループの発表を聞き、違いについて意見交換をする
6. **寄付体験の共有と学びについて共有する**

オプション

【一日モデル】
実際にNPOにインタビューして、団体に成り代わって活動の魅力をクラスでプレゼンし、生徒間で寄付投票する。

【フォローアップ学習】
書き損じはがき集めや、チャリティコンサートの開催など、生徒主体の寄付集めの実践体験の実施など。

授業を受けた生徒の声

私みたいなごく普通の一般人には社会は動かせないと思っていたので、最後の「あなたが共感し応援したい活動に参加することで社会は変わります」というのがすごく心に残った。
小学6年生 / 女子

表面的に見るだけでなく、「こうやったらこうなる」「これをやったらいいよね」とグループで考えることで、日本で活動している団体から応援してみようと思った。
中学2年生 / 女子

今回の授業はいっぱいもめたし、協力することも多かったのでよかったと思います。それにみんな1人ずつちゃんと意見をいえていたのでよかったと思います。
小学6年生 / 男子

今まで全く知らなかった何かを守る団体がたくさんあるということが知れたのでよかったです。機会があれば自分が良いと思う団体に参加したいと思いました。
高校1年生 / 男子

先生、学校の声

寄付という行為を、生徒自らが出来ること（社会参加）の1つとして意識づけられたと思います。また、寄付によって具体的に何が出来るか理解できたのではないでしょうか。他の人と価値観を共有することもでき、学びが多い授業でした。
中学校教諭

個別に考える時間と、グループで考える時間がある等プログラムも工夫されており、参加型の討議にも移りやすかったように思います。NPOの映像資料のメッセージ性が高く、生徒にも活動内容が分かりやすてよかったです。
高校教諭

70教室 2,223人

2010年にモデル授業として開始した「寄付の教室」は、この4年間で全国27校、6つのイベントを通じて、70教室を実施してきました。小学生から高校生まで、授業を受けた子どもたちは2,223人にのぼっています。

学校、児童館など募集中!

小・中・高校生向けフィランソロピー教育プログラム。

「寄付の教室」を開催してくださる学校、児童館などを募集しています。

寄付の教室 検索 http://jfra.jp/ltg/

日本中すべての小中高で寄付教育を実現する。

TO THE NEXT STAGE.

皆さんとともに、日本社会を次のステージへ。

私たちは、「社会のために、何か役に立ちたい」と考える人を「枠」を超えて繋ぎ、
社会の課題を解決するために、
民から民への資金の流れが10兆円生まれる時代を実現します。

年800億円の休眠預金の社会的活用は、政治、行政、金融機関のみなさんと
携帯電話を活かしたユニークな寄付の仕組みは、携帯電話業界のみなさんと
遺贈寄付の推進は、弁護士、税理士、金融機関のみなさんと
社会投資市場の実現は、証券業界や個人投資家のみなさんと
寄付教育の推進は、学校の先生たちと

そして、これらの仕掛けを生み出し、活かす力が、
プロフェッショナルなファンドレイザーたちです。

これからは、善意の資金循環を生み出す「主役」が全国各地に誕生するステージ。
未来の子どもたちが、誇りに思うような、日本らしく、世界のモデルになるような
社会を一緒につくっていきましょう。

TO ACHIEVE 2020 VISION

有資格者の組織化（チャプター）

認定ファンドレイザーが増える中、全国各地でチャプター（支部）を創設させ、各地でのファンドレイジングのノウハウ・知見の交流、寄付教育が推進し、プロフェショナルファンドレイザーが輝く場を創出します。

休眠預金を社会的事業等に活用

長い間取引がされていない、“眠っている”銀行預金のことで、毎年800億円を超えるといわれています。現在は、銀行の収入になっていますが、このお金を社会的事業等への活用を実現します。
http://kyumin.jp/

遺贈寄付推進

40歳以上の2割程度が相続の一部を寄付してもよいと回答（寄付白書2013）しており、遺贈への関心が今後さらに高まると思われる中、社会への恩返し、次世代への継承の概念やそういった生き方をNPOがサポートできるような体制を整えます。

社会投資市場の実現

寄付だけでなく、投資による善意の資金循環を生み出すために、経済的価値だけでなく、高い社会的価値を創出するNPOやソーシャルビジネスが上場することで、債券や株式が公開され、取引される仕組みを実現します。

代表理事
鵜尾雅隆

Japan Fundraising Association

TEAM JFRA

応援してくださっている皆さまの声

多様な「革新」を誘発し、みんなで夢を実現してほしい。

(特活)日本NPOセンター 代表理事 ／ (特活)日本ファンドレイジング協会 副代表理事
早瀬 昇さん 会員

夢は組織と共に社会も変える。魅力的な夢は人々の共同行動を促すからだ。論より証拠。協会の夢=「2020年、日本社会の「善意の資金」総額を年間10兆円」とすることは、今、多くの人々の夢となった。残り6年！多様な「革新」を誘発し、みんなで夢を実現するプロデューサーとしての活躍を期待しています。

これからもたくさんの学びと気づきが生まれる場を創っていきたい。

(特活)カタリバ 広報ファンドレイジング部 部長
山内 悠太さん 会員

ファンドレイジングという未知の分野にチャレンジするにあたって、協会で学んだことや、出会った方々からの刺激にパワーをもらっています。准認定ファンドレイザーとなり、今度は私が学んだことを一緒に頑張るメンバーにも伝えていきたいですし、協会にはたくさんの“学び”や“気づき”が生まれる場を、創り続けていってほしいです。

共感の輪が広がり、NPOの活動が活発になりますように。

学生
北山 未紗さん ボランティア

インターンとして参加して、協会には多くの熱意あふれるサポーターを引きつける魅力があるということを感じました。そのような協会の魅力が、日本の寄付文化の革新や明るい社会を作ることに繋がっていくのではないかと思います。今後も協会の活動が共感の輪をつなぎ、日本におけるNPOの活動がますます活発になることを期待しています！

日本社会を信じて、夢を実現したい。

(特活)NPOサポートセンター 事務局長代行
小堀 悠さん 認定講師 会員

5年前の設立案内を拝見したその日から、いくつもの新しいチャレンジにワクワク・ドキドキの連続でした。研究会やファンドレイジング大会に参加しているうちに、気が付けばNPOへ転職し、認定ファンドレイザー、認定講師とドップリ深入りしていました。「夢」の実現に向けて、一緒に挑戦できることが楽しみです。

将来、ファンドレイザーになりたい。

日発販売(株)
荒谷 知佳さん ボランティア

大学時代の1年3か月、ボランティアとして参加しました。その間、夢を語り、キラキラ輝いている大人と出会い「こんな大人になりたい」と憧れて、自分の夢について真剣に考えました。学生時代に素敵なファンドレイザーの皆さんにお会いしたことが私の人生を大きく変えました。私も、後輩たちに、出会いと夢をつなげていきたいです。

倫理を持ったファンドレイザーが誇りをもって活躍できる社会を実現したい。

NPOのための弁護士ネットワーク代表 弁護士
樽本 哲さん 会員

ファンドレイジング行動基準はその冒頭で民間非営利団体が行うファンドレイジングの本質を端的に述べています。真の意味でのファンドレイジングをともに学び、育て、実践する仲間が笑顔で集う場所、それが協会だと思います。多様な背景を有する大勢のファンドレイザーが誇りをもって活躍できる社会を実現してください。

全国に、ファンドレイジングを広めたい。

(株)ファンドレックス ファンドレイジング・プロデューサー
イノウエヨシオさん 会員 認定講師

全国には、まだ「ファンドレイジング」という言葉に初めて出会う方がいらっしゃいます。調査によって数字に差異がありますが、5-6割の団体が未だに「今まで寄付をうけたことがない」と回答されています。こうした方が小さな成功体験を得て、一歩あゆみだしてもらうことがマイミッションだと思っています。

サラリーマンを辞め、独立系ファンドレイザーに。

小川宏事務所
小川 宏さん 会員

独立系ファンドレイザーとして共感できるNPOの支援を行い、より良い社会の実現に貢献したいと思います。また、ビジネスの世界からファンドレイザーを目指す人がどんどん増えるように、かっこいいファンドレイザーを目指しています！

最高の笑顔と、最高の企画で、夢と希望を。

Salesforce.com Foundation マネージャー
遠藤 理恵さん

孤軍奮闘していた日本各地のNPOが、協会のすばらしい活動のおかげで自らの役割を再認識して、より強い信念を持って社会を変えていると感じています。これからも最高の笑顔で、最高に面白い企画で、一人でも多くのファンドレイザーに夢と希望をお願いします。夢の実現に向けて、Salesforce.com Foundationは協会とともに走り続けます。

日本版ブランド・ギビング信託が実現。

三井住友信託銀行
合田 政生さん 会員

ブランド・ギビング信託(特定寄附信託)の実現に向けてご一緒して以来、協会の皆様の目標に向けて走り続ける姿に感銘を受けています。「寄付10兆円市場」に向けて、新たなステージが始まりますね。これからもチャレンジに期待しています！

志のこと。お金のこと。

(株)電通 特命顧問 ／ (特活)日本ファンドレイジング協会 副代表理事
白土 謙二さん 会員

人がいる。志がある。変えたい、救いたい、さまざまな熱い想いがある。しかし、それを実現するためには、お金がいる。その重要さに気付いた時、それは同時に、支援や寄付をお願いすることの難しさや、大切さや、責任感に気づく時でもあるはずです。困難な仕事だからこそ、前向きに、たのしく、したたかに。みなさんと「ファンドレイジング」を、作り上げながら広めていきたいです。

「こんな世界になればいいな」が実現。

千葉県庁
石井 督洋さん 会員 ボランティア

私がNPOにかかわるの仕事をしていた時に「こんな世界になればいいなぁ」と思っていたことが、協会に携わる皆様のご尽力により5年間で着実に実現してきており驚いています。「ファンドレイジング・日本」やボランティアなどを通じて学んできたことを生かしながら、ファンドレイザーとしても邁進していきたいと思います。

「日本を変える組織になるな」という直感。

戦略ストラテジスト
坂之上 洋子さん

あるレストランで鵜尾さんが協会の構想を皿の下にひいてあった紙に書いて説明してくれた時の興奮を覚えています。「あぁ、これは日本を変える組織になるな」そう直感しました。それから戦略を練る中で、ファンドレイジングという言葉自体の認知度がとても低く、悩んだことを覚えています。それから、5年。協会の発展が日本全体を元気づけてくれるでしょう。

「社会投資市場」をともに必ず実現しよう。

(公財)あいちコミュニティ財団 代表理事 ／ コミュニティ・ユース・バンクmomo 代表理事
木村 真樹さん 会員

人口減少＆少子高齢化が加速度的に進むこれからの日本において、ファンドレイジングを体系的に学ぶしくみをつくられた功績は(その恩恵を受けた一人としても)とても大きいと感じています。民の“志金”が地域や社会の課題解決に今後ますます生かされるように、「社会投資市場」をともに、必ず実現しましょう！

携帯電話での寄付でイノベーションを起こしたい。

ソフトバンクモバイル(株) CSR企画部 部長
池田 昌人さん

2011年にソフトバンクのCSRが新しく継続型寄付のチャリティホワイトを進めている時に鵜尾代表理事にお会いし、非常に熱いお話しを伺ったのを覚えております。携帯電話を利用しての「寄付」を私も推し進めていきたいと思っています。2020年に、「携帯電話での寄付」がひとつのイノベーションだったといわれるように、私たちも頑張ります。

地域発の新しい資金循環を生み出していきたい。

(社福)福井県共同募金会主任
鷹尾 大英さん 会員

「寄付」には希望や可能性があるんだと、いつもエールをもらっています。今、赤い羽根では、助成を受ける団体と一緒に募金活動を行う使途選択募金が広がりはじめ、「助成金をもらう」から「仲間を増やしていく」に変わりつつあります。今後も地域の社会課題に気づき、少しでも良くしようとする活動を寄付で支える「新しい循環」を地域で生み出していきます。

「寄付の教室」の全国展開に期待！

(特活)日韓アジア基金・日本 理事 ／ (特活)シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 副代表理事
大澤 龍さん 会員 ボランティア

「日本の寄付文化の醸成」という観点から、協会の各種施策の中で一番興味を持ち、かつ応援したいのは「寄付の教室」です。受講した若い人たちの反応が素晴らしく、寄付という切り口から「他人を思いやる気持ち」に気づいてゆく過程は大変興味深いものがあります。これからの広がりを期待しています。

毎年盛り上がっていく大会に日本の未来の可能性を感じている。

(株)バリューブックス 代表取締役
中村 大樹さん

2011年から毎年「ファンドレイジング・日本」に参加させていただき、急速な規模の拡大とともに年々盛り上がっていく皆さんの熱気に圧倒されております。協会の理論と実践双方を見据えた啓蒙支援活動が全国各地の人々の志を結びつけ、「寄付市場10兆円」を実現することをお祈りいたします。

寄付者が幸せを実感し、ファンドレイザーが輝く社会づくりをしたい。

(公財)日本財団経営支援グループ ファンドレイジングチーム
山﨑 美加さん 会員

ファンドレイザーとして、寄付者と社会をつなぎ、寄付してよかった！人生がHappyになったと実感している人を日本中に増やしていきたい！また、「ファンドレイザー」という職種を、なりたい職業トップ10入りさせたいと思っています。そのためにも、ファンドレイザーが輝ける未来づくりを協会とともにやっていきたいです

世界に誇るソーシャルデザイン組織に成長してほしい。

アメリカ合衆国大使館
中西 玲人さん

全てのNPOにとって最重要課題の一つであるファンドレイジング力強化。世界中の事例やノウハウを超吸収し、ファンドレイジングに留まらず、世界一のソーシャルデザイン組織に成長することを期待せずにはいられません。

※順不同

設立から5年間、
組織基盤助成を
してくださった日本財団。

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

日本ファンドレイジング協会の
活動にご理解いただき、
参画していただいている
法人会員(企業・団体)の皆さま。

※2014年3月末現在。50音順。敬称略

(特活)あおもりNPOサポートセンター
(特活)アイディング
(特活)江戸城天守を再建する会
(公財)オイスカ
(特活)思いをつなぐ会
(特活)オペレーション・ブレッシング・ジャパン
(特活)かものはしプロジェクト
花王(株)
(特活)禁煙&STS協会
(特活)くびき野NPOサポートセンター
(特活)グッドネーバーズ・ジャパン
群馬NPO協議会
(公財)国際開発救援財団
(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)
(公財)公益法人協会
(特活)国連UNHCR協会
(特活)国境なき医師団
(公財)さわやか福祉財団
(特活)佐賀県CSO推進機構
(公社)シャンティ国際ボランティア会
静岡県くらし・環境部県民生活課NPO班
(特活)シェア=国際保健協力市民の会
(特活)ジーピーパートナーズ
(一財)世界こども財団
セカンドハーベスト・ジャパン
(特活)世界の子どもにワクチンを日本委員会
(一社)全日本ピアノ指導者協会
(特活)チャイルド・ファンド・ジャパン
(特活)テラ・ルネッサンス
(公財)電通育英会
(特活)難民を助ける会
日本赤十字社愛知県支部
(公財)ハイライフ研究所
(特活)ハンガー・フリー・ワールド
(公財)パブリックリソース財団
(公財)被害者サポートセンターあいち
ヒューマンホールディングス(株)
(株)ビューポイントコミュニケーションズ
(株)ファンドレックス
(公財)福武財団
(社福)福岡市社会福祉協議会
(特活)ブリッジエーシアジャパン
(公財)プラン・ジャパン
(特活)北海道NPOサポートセンター
(特活)ホープワールドワイド・ジャパン
(特活)ホワイトベル
(公財)ボーイスカウト日本連盟
(一社)みやざき公共・協働研究会
(公財)みんなの夢をかなえる会
(特活)みんなでお城をつくる会
(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン
(特活)わかやまNPOセンター
BRIDGE
(公社)CivicForce
(特活)Mブリッジ
(特活)NPOサポートセンター

ABOUT US

理事・監事

代表理事
鵜尾 雅隆
(株)ファンドレックス
代表取締役

副代表理事
白土 謙二
(株)電通
特命顧問

副代表理事
早瀬 昇
(特活)日本NPOセンター代表理事

理事
伊藤 美歩
(有)アーツブリッジ
代表

理事
金沢 俊弘
(公財)公益法人協会
専務理事・事務局長

理事
菅 文彦
(同)コーズ・アクション
代表

理事
岸本 幸子
(公財)パブリックリソース財団
専務理事・事務局長

理事
渋澤 健
コモンズ投信(株)
会長

理事
田幸 大輔
政策分析ネットワーク
運営委員兼事務局長

理事
田中 皓
(公財)助成財団センター
専務理事

理事
林 泰義
(特活)玉川まちづくりハウス
運営委員

理事
山北 洋二
あしなが育英会常勤監事

監事　**浅野 晋**〔弁護士〕　**脇坂 誠也**〔税理士〕

事務局スタッフ

事務局長
徳永 洋子
統括、ファンドレイジング担当

事務局次長
鴨崎 貴泰
統括、大会・社会的投資市場・新規事業担当

三島 理恵
広報・ボランティアマネジメント・ジャーナル担当

大石 俊輔
寄付白書・寄付の教室担当

宮下 真美
認定ファンドレイザー・システム担当

小室 敬幸
研究会・講師派遣担当

初代代表理事からのメッセージ

(公財)さわやか福祉財団 理事長
堀田 力

よくぞここまでお支え下さいました。初代の代表理事として、5年間の事業報告がしっかり皆さんに届けられるところまできたことの幸せをかみしめています。私は、はばかりながら寄付募集については鵜尾さんたちより先達のつもりでいて、だから始まりの頃は、「ファンドレイジングなどとおしゃれな言い方に変えても、この日本、寄付文化はそうそう広がるものじゃないぞ」と、代表らしからぬクールな思いでおりました。なのに、この勢いは何でしょう？若い人たちの、我も我もという参加ぶりは、私の理解を超えております。日本の若者、やりますね。そのエネルギーが形になって、日本の社会が、「社会保障」と「寄付」の2つで底支えされる構造に進化しますように、願い、期待しております。まだまだ、まだまだ、これからですぞ。

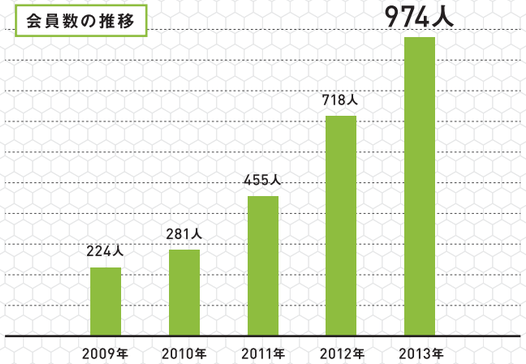
OVER VIEW OF JFRA

数字でみる日本ファンドレイジング協会

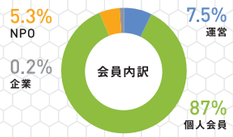
これまでの5年間の変化を数字で示しました。
「ファンドレイジング」という言葉がまったく知られていなかった頃に比べると、
関わってくださっている方ひとりひとりがその価値の発信者となってくださったおかげで、
確かにその輪が広がってきているのがご覧いただけます。

約5倍になった、一緒に「ファンドレイジング」に取り組む仲間

会員数の推移

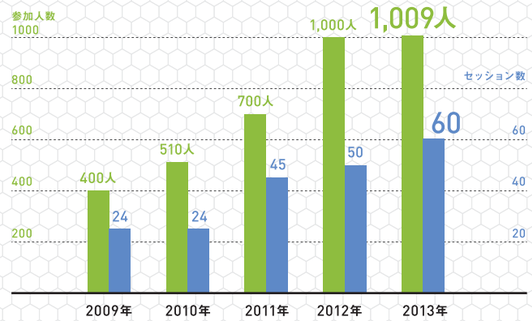


当初、224名だった会員数は、5年間で約4.3倍の974名にまで着実に増加してきました。賛同会員（個人・NPO・企業）数は当初の166から約5.4倍の901にまで増加しました。



400名から1,000名を超える参加者が集うまで成長したファンドレイジング大会

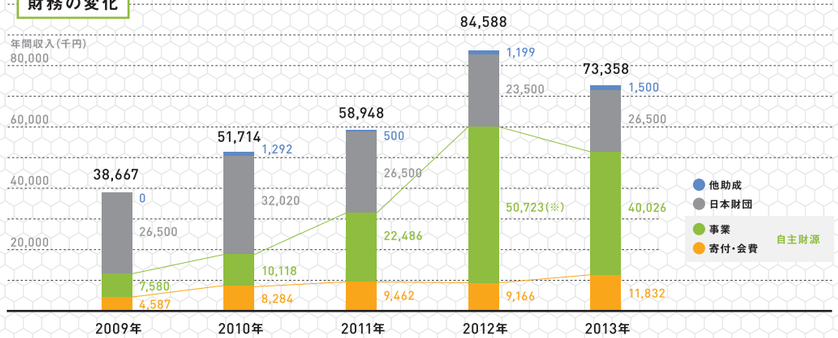
大会参加者・セッション数推移



2009年に開催したファンドレジング大会には、400名が参加しました。当初セション数は24でしたが、今では60を超えるセッション、1,000名を超える参加者が集うファンドレイジング大会に成長しました。

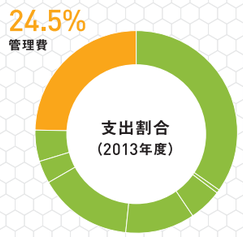
自主財源比率がこの5年間で約2倍に成長

財務の変化



日本財団から組織基盤助成を受けてきたこの5年間の間に、会費・寄付収入や事業収入が増え、自主財源比率が当初の31%から71%までに成長しました。

※2012年度は内閣府「新しい公共支援事業」関連の委託事業を受託したため、事業収入が大幅に伸びている。



事業費(内訳)
大会 46%
セミナー・研究会 1%
ジャーナル 7%
寄付白書 14.5%
認定ファンドレイザー資格制度 19.8%
フィランソロピー教育 4.8%
その他事業 6.9%

私たちのシンボルマークは、大小様々な六角形が繋がり、上方に伸びていくことをイメージしています。
「六角形」は、大自然界の秩序に適合した形（力学的構造）で、最も安定した力（パワー）を発揮するともいわれ、象徴的にも相反するエネルギーの調和や、世界の融和を表す形状といわれています。自然界でも、雪の結晶やハチの巣、亀の甲羅などでも見られます。
私たちは、六角形の6つの角を①寄付者、②民間非営利組織、③受益者、④行政、⑤企業、そして⑥未来に生まれてくる子どもたちにみたてて、その全ての人々の幸せが調和して、循環する社会を目指していきたいという想いをこのマークに託しました。
大小様々な六角形には、地域で、教育の場で、企業で・・・いろんな場所で、いろんな人たちが他の人の幸せとの調和を考え、そして力を合わせ、つながって成長していく。そんな社会を築きたいという願いを込めています。

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会
〒105-0004 東京都港区新橋4-24-10 アソルティ新橋302
TEL: 03-6809-2590　E-mail: jfra@jfra.jp

JFRA 検索　http://jfra.jp/

日本ファンドレイジング協会　@jfra2020

※こちらへ記載している内容は、2014年3月現在のものになります。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION